

北海道版



にぎわい

日本海にぎわい・交流海道ネットワーク通信 Vol. 202

稚内市



北防波堤ドーム竣工 80 周年記念 ～第 14 回 WAKKANAI みなとコンサート



北防波堤ドーム



みなとコンサート

北海道稚内市

北防波堤ドームは、北防波堤に併設して設けられた樺太航路(稚内～大泊・本斗)連絡船発着場の乗客や貨物を波浪から護るために昭和 6 年に着工し、昭和 11 年に完成しました。

形状は、半アーチ型の世界に類のない円柱 70 本の柱廊風のゴシック建築を模した重厚なデザインです。

現在は、北防波堤ドームを中心としたエリアが、平成 19 年に「みなとオアシスわっかない」として登録され、市民や観光客が交流の場として様々なイベントを展開しています。

7 月 17 日(日)に「稚内のみなとを考える女性ネットワーク」が主催して、「WAKKANAI みなとコンサート」が開催されました。開催当日は、晴天にも恵まれ 12 団体が演奏やダンスを披露し大いに盛り上がりました。

また、今年は稚内港北防波堤ドーム竣工 80 周年記念ということで、16 日(土)に前夜祭を行い、こちらでも野外バーベキューに舌鼓を打ちながら、音楽や踊りを楽しみ、クイズ大会や抽選会などで盛り上がりました。



樺太(現在のサハリン)との交流を支えた北防波堤ドーム



野外バーベキューをした前夜祭



南極観測 60 周年記念事業 ～ “しらせ” 稚内寄港～



稚内公園
南極観測樺太犬訓練記念碑 タロ

北海道稚内市

南極観測船「宗谷」が第1次日本南極地域観測隊とタロ・ジロたちを乗せ南極に向かって60年！日本の南極観測が始まることに伴い「樺太犬」の派遣が決まった稚内市は訓練地であり、タロ・ジロの生まれ故郷でもあります。

初代南極観測船の船名に「宗谷」が使用されるなど、稚内と南極観測は歴史的にも深い関わりを持っています。

そこで、「南極観測 60 周年記念事業」の一つとして、海上自衛隊所属の南極観測船「しらせ」(12,650トン)が稚内港へ寄港したので紹介します。

「しらせ」は4代目の南極観測船として、平成21年に就航。全長138m、幅28m、厚さ1.5mの氷を割りながら航行することが可能で、観測のための最新鋭の設備を有しています。

乗組員約180人を乗せ、全長138mの迫力ある同船は、9月9日(金)午前9時50分、悪天候の中、稚内港末広埠頭に着岸しました。平成22年以来、6年ぶりの寄港です。

稚内海峡太鼓保存会や稚内大谷高吹奏楽部の演奏で出迎え、入港に花を添えました。

歓迎式では、記念事業を主催する実行委員長の工藤広市長が「地球温暖化が叫ばれる今、南極観測が果たす役割は大きい。今回の寄港は、多くの人々が地球環境について考える機会になるだろう。」と歓迎、大鋸艦長は「市民の皆さまには一般公開を通じて、南極観測への理解を深めてほしい」と挨拶しました。



南極観測船「しらせ」末広埠頭係留状況



南極観測船「しらせ」ブリッジ一般公開状況